

# 列

三年

回数 6  
筆順 一ア 歹列

オン  
レツ

成り立ち



「骨」という字の一ぶ、骨のつなぎをあらわした「歹」と、刀の形をあらわした「リ」とを組み合わせて作った字です。

食用にするものにくをりよりするために「にくを骨から切りとる」ことをあらわした字です。このとき切ったにくをきちんとならべますので、「ならべる」といういみにつかわれます。

また、「ならんだもの」や「ならんだ形」のことを、「列」といいます。また、「多くのもの」といういみにもつかわれます。

使い方

▽きのう、みんなで上野どうぶつえんへ行きました。どうぶつえんは人でいっぱい、とくにパンダののり前は人が列を作ってならんでいました。

▽うんどう会のれんしゅうで、整列のけいこをしました。きちんと列を作るのは、おもったよりもむずかしくて、なん回もれんしゅうしました。

熟語例

▽整列（列を作って、きちんとならぶこと。）

▽行列（たくさんの方がならんだ列。「魚やさんは、きょうは大安売りなので、お店の前には行列ができていました」などというふうには、つかいません。）

▽列車（いくつかの車りょうをつないで作った、電車や汽車）

▽列島（つながってならんでいる島。「日本列島は四つの大きな島と、たくさん小さな島々からなっている」などというふうには、つかいません。）

▽陳列（人に見せるために、なにかをならべておくこと。「ショーケースの中には、めずらしいこん虫のひょう本が陳列されていた」などというふうには、つかいません。）

# 練

三年

回数 14  
筆順 糸 紵 紳 練

オン  
レン

フン  
ね 11 11

成り立ち



「束」と「八」とで「束をえり分ける」といういみをあらわした「束」と、「糸」とを組み合わせて作った字です。

「糸をえり分ける」といういみの字ですが「りつばな糸を取る」とをあらわしたものです。

まゆから取った糸を、あく汁で煮ますと、糸がしなやかにになり、つやが出ます。この「あく汁で煮ること」を「ねる」と言います。練は「糸をねる」とを表現した字です。【例練り絹】

「良い物をえり分ける」といういみに使います。【例精練】

同じ事をくり返し行うことによって「熟達する」ことのいみにも使います。【例練習、熟練、洗練】

使い方

▽絹糸を練ると、しなやかにになり、つやが出ます。

▽この文章は、よく練られていて、むだなことがありません。

▽剣道でうでをみがき、読書で心を練ることに努めようと思います。

熟語例

▽練り糸（生糸をあくで煮て、しなやかでつやのある糸にしたもの）

▽精練（繊維を煮て不純なものを除き、純度を高めること。精は純度の高いいみ。純粋なこと。）

▽練習（習は同じ事をくり返して行うこと。物事に熟達するよう、同じ事をくり返して行うこと。）

▽熟練（同じ事をくり返して行うことにより、物事に熟達すること。【例機械の製作に熟練する】）

▽訓練（指導による練習。【例学校で体育の訓練を受けた結果、運動に自信がもてるようになった】）

▽洗練（練習によって能力が向上すること。感覚が優雅高尚になること、人格が円満になることなどのいみに使われます。【例洗練された人】）